令和6年度　事業報告

部署名	法人本部	事務局長	清水　広好

上田しいのみ会

1　昨年度の重点事業計画と達成度

事業計画		達成度	
①	令和6年度報酬改定の対応支援	①	☆診療報酬、介護報酬、障がい者支援関係報酬、のトリプル改定となり心配されたが、より重度のご利用者へのケアに対する評価がなされ、各施設ともその恩恵に預かることができました。又職員の新たな処遇改善給付金の取得にも対応ができ、バランスを保ち職員への待遇改善を図ることができました。
②	つむぎの家の移転に伴う支援	②	☆5月から予定通りつむぎの家を移転して旧陽だまりの家で事業継続ができました。改修工事費用、指定管理制度の継続、土地・建物の賃貸借契約締結、新たな施設長の引継ぎ等すべてクリアできました。 尚、GHPエアコン設備の老朽化が後日発覚し、半額を上田市から助成して頂き整備をすることができました。これはつむぎの家新旧施設長による尽力が功を奏した面がありました。
③	社会福祉法人の 持続可能な経営の強化	③	☆世界経済や国内経済が不安定な中、消費物価指数も3%程度の上昇にも何とか対応することができました。但し、上田しいのみ園の調理部門は食材料価格の高騰と人材の確保等直営方式による給食提供が困難となり、理事長・所属施設長を中心に運営協議会で協議を進め、業者委託方式に移行することを決め、業者選定を始め移行の手続きを実施しました。
④	介護人材離れに負けない求人 ・職員定着体制の構築	④	☆室賀の里で6名（特定技能生4名を含）の退職職員があり、急遽インドネシア人技能実習生の受け入れ（4期生3名、5期生3名）を決めました。そのために新たな職員寮の整備が必要となり職員寮の改修工事を実施しました。 尚、令和7年度4/1から入職予定の、新卒者4名、新規採用者2名を受け入れ、各施設で必要な職員配置を維持しています。

2　昨年度実施した施設整備工事・整備設備等

つむぎの家（旧陽だまりの家）移転改修工事費	643	万円（令和6年度支払い分：全額上田市から助成）
職員寮（第2寮：上田市上室賀171）の改修工事費	612	万円
つむぎの家GHP設備更新工事費	594	万円（うち297万円は上田市から助成）
昨年度の固定資産取得支出合計　1,958 万円		

3　主な活動・実績等

①	人材の確保 ◎入職者：　新卒者2名（大学卒2名）/看護師2名（正規1名・パート1名）/中途入職者：看護師1名/作業療法士（OT）1名（パート）/社会福祉士1名/外国人介護技能実習4期生3名/昇格者1名（支援員：嘱託⇒正規） ◎産休・育休取得者2名/産休・育休復帰者2名 ◎令和7年度　新規入職者：　新卒者4名（高校卒2名・専門短大卒2名）　新規入職者：　4月1日入職者2名　介護技能実習5期生者3名　昇格者1名（介護職員：嘱託⇒正規）　勤務形態の変更者2名（調理員⇒支援員、嘱託管理栄養士⇒嘱託介護員）
②	就業規則・給与制度の改定 ◎育児介護休業法の改定に伴う育児介護休業規程の改定を実施しました。 給与制度につき世の中の動きに合わせて今後の最低賃金の上昇等にも対応できるように、給与表や一部給与規程の改定を実施しました。改定にあたっては笹井社会保険労務士事務所に相談の上法人運営協議会で協議を重ねました。
③	社会貢献事業 ◎旧八十二銀行川西支店の跡地に、地域の総合的な社会福祉相談所として介護・福祉相談センター『かわにし』を立ち上げて以来、地域の福祉に関する様々な相談を気軽に受けられるようになりました。

4　その他　報告事項

①	従来から介護職員研修受講支援事業の助成金を取得していたが、その関連で長野県の担当者から令和6年度施設内保育所運営費補助事業の活用が出来る可能性がある旨助言を頂き、申請したところ222万5千円の助成金を取得できる運びとなりました。その他に人材開発助成金、障がい者雇用支援給付金等の助成金を取得できています。 又10/31株式会社石原産業様から10万円、同石原社長様個人から5万円の御寄付を頂きました。
②	新たな職員処遇改善交付金の支給に関して、運営協議会で支給方法の検討をしました。報酬改定に合わせて加算方式による給付金の一本化も図られその対応をしました。障がい者事業と高齢者事業で若干考え方が異なり、法人としてはバランスを取りにくく苦慮をしましたが何とか対応を図ることができました。その結果更に職員の処遇改善に寄与しました。
③	各施設でコロナ感染・インフルエンザ感染・謎の風邪症状等の感染対応がありましたが、BCP（事業継続計画）による職員対応ができ何とかその都度収束しています。但し、感染症対策にはある程度の職員マンパワーが必要であり、人員不足のため本入所・短期入所の一時休止を余儀なくされる施設もありました。今後も常にこのようなリスクを抱えながら施設運営をしていく必要があり、こうした危急の際にも落ち着いて対応を図れる職員の育成が更に求められ今後の大きな課題でもあります。

令和6年度　事業報告

施設名	上田しいのみ園	施設長	佐藤　淳一

上田しいのみ会

1　重点事業計画と達成度

事業計画	①	・中長期的な今後のしいのみ園について検討。 ・加算の取得など可能なことを見極めながらご利用者支援をより良いものにつなげられるよう検討。	達成度	①	中長期的に考えなくてはならない課題については、検討を随時行いましたが現状で進められるものは考えることができませんでした。 新たな加算を取得しながら、ご利用者にとっても良い支援を行うことができたと思います。
	②	・ご利用者の高齢化、障がいの重度化、多様化に対して支援方法等のバージョンアップ。 ・環境の整備、そして研修機会を充実することにより、より良い支援を提供。		②	支援の方法について職員間で徹底することが必要なことも増え、支援部会等で検討しながら良い支援につなげました。 障がいの重度化によりベッドの上げ下げが必要な方が増えたため3モーターベッドを導入しました。今後も継続して導入を考えています。
	③	・作業を含めた、新しい活動の開拓・充実。 ・行事等も創意工夫しながら、自立した活気あふれる日常を目指した支援。		③	新しくバリューブックスから古本のクリーニング作業を受注し、これまで作業のなかった方も参加されるようになりました。また新たに通所を始めた方達は空き缶の作業に取り組むなど、活動の時間を持つことができました。 行事も工夫しながら新たなスタイルで実施しました。

2　ご利用者状況　（　R6年度末　令和7年3月31日現在　）

（1）生活介護及び施設入所支援利用者

①	施設入所支援定員	定員	40名	現員	39	年間入院・外泊日数	596　日
②	施設入所支援性別	男性	24名	女性	15名		
③	平均年齢	男性	64.8歳	女性	65.9歳	全体	65.2歳
④	年度内入退所	退所	2名	入所	3名		

（2）生活介護利用者

①	生活介護登録人員	男性	6名	女性	8名	全体	14名
②	平均年齢	男性	49.5歳	女性	45.4歳	全体	47.5歳
③	新規登録者	男性	1名	女性	3名	解除	1名

（3）障害支援区分

区分	6	5	4	3	2	平均
入所支援	14	17	6	2	0	5.1
生活介護	4	4	5	1	0	4.7

（4）短期入所利用者

定員　2　名

短期入所の年間利用率　53%

3　実施した施設整備工事・整備設備等（1件　100万円以上のもの）

① 高圧受変電設備改修工事

4　修繕費合計　160　万円

汚水ポンプ槽水位センサー取替修理

機械浴コントロールワイヤー、カバー修理　等

固定資産取得費合計　101.5　万円

給食栄養管理システム・相談用パソコン

PT用パソコン・居室エアコン（1台）

5　主な活動・実績等

①	令和6年度の運営については1年を通しては比較的安定した状況でしたが、年末年始に長く入所されていた方2名がご逝去され退所されました。また長期間の入院で本来であれば退所となる方が、行政の都合で次の入所ができないままベッドが空いている状況で、しいのみ園としても収入減となり困っている状況です。また食材費等の高騰は続いており、他の部分で支出を減らせるような工夫をしながら、安定した収支状況を継続することができました。
②	新型コロナウイルスに関しては、少しずつ通常の生活に戻り、個別外出や帰省、面会なども当たり前に行っています。しかし年末に新型コロナでもインフルエンザでもなく、呼吸器症状の強い風邪の集団感染が起きてしまい、1ヶ月近くかけほぼ全員のご利用者が発症し、中には重症者もいる状況でした。

6　その他　報告事項

調理員の採用が難しい状況が数年続き、本格的に採用できない状況となったため、直営から業務委託にシフトしていく判断をしました。いくつかの業者から検討を重ね、準備を行い、令和7年4月1日よりルルパ株式会社に委託することになりました。

令和6年度　事業報告

施設名	相談支援事業所　椎の実	施設長	山本　晴彦

上田しいのみ会

1　重点事業計画と達成度

事業計画	①	法人内障がい者支援施設利用者の相談支援を拡充します。	達成度	①	上田しいのみ園、しいのみ療護園、つむぎの家ご利用の方々の計画相談は予定通りに行うことができました。
	②	在宅利用児・者の計画相談にあたりサービス事業所との連携を図ります。		②	在宅サービス利用者については自宅に訪問したり、事業所と連携を取りながら計画相談を行いました。
	③	重症利用児・者のショート及び緊急一時支援ニーズへの対応のため法人の障がい者支援施設との連携を強化し受け入れに協力します。		③	利用人数は少なめですが、計画通りに取り組むことができました。
	④	上田市つむぎの家の移転に伴い、兼務していた相談支援事業所の管理体制の見直しと併せ、相談支援体制の見直しを図ります。		④	管理者の変更を行い、事業所で受け持っているご利用者の担当を見直しました。

2　令和6年度のご利用者状況　（　令和7年3月31日現在 ）

(1) 指定特定相談支援事業利用者

①　利用登録者　62　名　（うち施設利用者　47　名 ）

②　男性　39　名　女性　23　名

③　平均年齢　男性　61.3　歳　女性　61.4　歳　全体　61.3　歳

④　年度内利用解除者　3　名　年度内新規利用者　1　名

(2) 障害児支援事業利用児

①　利用登録児　0　名

②　男性　0　名　女性　0　名

③　平均年齢　男性　歳　女性　歳　全体　歳

④　年度内利用契約解除児0名　年度内新規利用児　0名　継続基本相談支援利用児　0名

(3) 一般相談支援事業利用者

①　利用登録者　0　名　地域移行・地域定着　0 名

②　男性　0　名　女性　0　名

③　平均年齢　男性　歳　女性　歳　全体　歳

④　年度内利用契約解除者0名　年度内新規利用者　0名　継続基本相談支援利用者　0名

(4) 障害支援区分

①指定特定相談支援利用者

障害支援区分	非該当1名	区分1:0名	区分2:0名	区分3:3名	区分4:11名	区分5:23名	区分6:24名

②障害種別（重複あり）

3　主な活動・実績等

今年度末の登録利用児・者は上記のとおり総数62名でした。内訳は施設入所者47名、在宅生活者15名（うち児童0名）となっています。ご利用者の高齢化や心身の機能低下により2名の方がご逝去され、1名の方が別の相談支援事業所へ移行されたため登録解除になっています。また、新規登録者については1名の方が精神科病院から施設入所されました。

令和6年度　事業報告

施設名	上田市つむぎの家	施設長	近藤聖一

上田しいのみ会

1　重点事業計画と達成度

①	新しいつむぎの家（小泉地区の旧陽だまりの家）へのスムーズな移転に取り組むとともに、今後も上田市と連携してより良い体制の整備を図っていきます。	達成度	①	5/2に、上田市長ほかご来賓をお招きしてオープニングセレモニーを実施し、連休明けの5/7から新施設で運営を開始しました。空調機器が不調となったため、急遽、市の支援も得て更新しました。
②	聞き取りや満足度調査をもとに、ご利用者・ご家族のニーズにさらに対応できる支援体制を図ります。		②	7月に保護者会を開催、2月に満足度調査を実施し、放デイについては制度に基づいて、自己評価も実施し、保護者からの評価と併せてホームページで公開をしました。
③	上田しいのみ園との日常的な職員及び利用者の交流を継続し、今後も強い結びつきを維持していきます。		③	ご利用者が上田しいのみ園を訪問する等して、同園の職員等と交流を図りました。 移転後も給食は上田しいのみ園厨房から提供し、PT、看護師の上田しいのみ園との連携体制も継続しています。
④	コロナウィルス感染予防対応を今後も継続しながら、工夫をして、楽しみの機会（創作活動・音楽療法など）を提供していきます。		④	個室の一つをご利用者の急な発熱時に隔離して、介護できるよう、カーテンを設置して感染拡大防止のゾーニングを実施しました。 創作活動は日々の生活の中で、音楽療法は、毎月1回実施し、ご利用者の心が豊かになるよう努めました。

2　ご利用者・児状況

（令和7年3月31日現在）

（1）生活介護事業利用者

①利用定員【5人】	利用登録者【11人】	{男性：8人、女性：3人}	平均利用率（5．0人/日）
②平均年齢【28.5歳】	{男性：29.8歳、女性：25.3歳}		平均在園期間（17.0年）
③入・退園状況	新規入園・退園ともなし		

（2）放課後等デイサービス事業利用学童

①利用定員【5人】	利用登録者【3人】	{男性：1人、女性：2人}	平均利用率（0.4人/日）
②平均年齢【13.3歳】	{男性：14.0歳、女性：13.0歳　}		平均在園期間（6年4カ月）
③入・退園状況	新規入園・退園ともなし		

（3）児童発達支援事業

①利用定員【5人】	利用登録者【0人】	{男性：　人、女性：　人}	平均利用率（　　人/日）
②平均年齢【　歳】	{男性：　歳	女性：　歳　}	平均在園期間（　　月）
③入・退園状況	入園（　人）	退園（　人）	

3　主な活動・実績等

1. 設備・修繕等実施事業

①ガスヒートポンプ式空調機器が不調を来し、市と協議の上、急遽、更新工事を実施しました。建物に付属する設備のため、本部会計での経理処理とし、施工費の半額について市から負担をいただきました。

2. 運営・活動状況

①スタッフ、ご利用者とも移転後の施設に馴れていくことに配意をしました。ご利用者は移転後の施設で不安を感じることなく、過ごしていただくことができました。

②生活介護の利用登録者のうち、2名について利用日数を増やしたことで1日あたりの平均利用日数は昨年よりも増加しました。また、6年度からの報酬改定の影響もあって、サービス収入は前年比で増加となりました。

③生活介護は月～水、金は6名、木のみ4名を受け入れているほか、急な要望があればできるだけ応えるようにしていますが、現状の体制では、新たな定期的な利用の要望には、応えにくくなっています。現在の放課後等デイサービス児童が生活介護に移行した年齢時の受け入れ体制が整うかが課題となります。

④放課後等デイサービスは、土曜日と長期休みを主に利用していただいています。結果として移転によって上田養護学校から遠くなってしまったので、今後、平日の需要動向が見えにくくなっています。

⑤つむぎ便りを毎月発行し、つむぎの家のご利用者の様子について情報提供を行いました。

令和6年度　事業報告

施設名	しいのみ療護園	施設長	中條　孝

上田しいのみ会

1　重点事業計画と達成度

事業計画	①	施設入所者の欠員に伴う新規希望者の確保を重点に地域及び行政機関と連携し、情報の共有を行い、安定した運営を行う。	達成度	①	新規入所希望者の増もあり、利用率が回復した。
	②	職員のスキルアップ研修を継続的に行い、専門職としての知識、介護技術の習得を目指し、施設サービスの質の向上に努めるとともに、次世代を担っていく中心的人材の育成を図る。		②	オンラインを活用した研修、県内外開催の対面研修に参加した。
	③	権利擁護の視点で意識を高め、虐待防止の取り組みを継続して行う。		③	園内での研修、外部主催の研修で徹底を図った。

2　ご利用者状況　（　令和7年3月31日現在　）

①　入所定員　50　名　入所現員　49　名　②　退所者　2　名　入所者　5　名

③　男性　31　名　女性　18　名

④　平均年齢　男性　57.0　歳　女性　55.4　歳　**全体　56.4　歳**

⑤　障害支援区分
（障害者施設）

区分	6	5	4	3
男	24	4	3	0
女	17	1	0	0
計	**41**	**5**	**3**	**0**

重 ←→ 軽

平均5．8

⑥　年間利用率

生活介護	93.4 ％
施設入所支援	92.9 ％
短期入所	19.2 ％

定員　2　名（内緊急対応1名）

3　施設整備工事・整備設備等（金額が大きい上位3件）

① 受水槽設備の更新　231　万円

② エアコン入れ替え　56　万円

③ 収納編戸取替工事　48　万円

4　修繕費合計　142　万円　固定資産取得費合計　347　万円

5　主な活動・実績等

①	5名の新規入所と予定者を1名確保できました。退所者は2名、入院者も少ない状況もあり利用率は上がり、さらに報酬改定に伴い、いくつかの加算を取得でき全体的な運営状況は増収となり積立を行いました。
②	短期入所においては地域生活支援拠点に関わる緊急ショートステイ業務を担う事業所として委託を受け、年間を通して1床確保し、受入、対応を行いました。
③	職員に関しては資格（介護福祉士1名、喀痰吸引従事者3名、）取得。オンラインの活用と県内外開催の対面研修に参加し、専門的知識の習得を進めました。

6　その他　報告事項

耐用年数が過ぎ修理が難しくなってきた特殊浴槽(寝浴)２台を新規入れ替えを行いました。

令和6年度　事業報告

施設名	室賀の里　三事業	施設長	村上　恒夫

上田しいのみ会

1　重点事業計画と達成度

事業計画		達成度	
①	(特養) 財務体質改善のため短期入所定員12名を6名に入所定員68名を74名に変更し収支の安定化をはかる。 報酬改定に合わせ加算の取得を図る。コロナ等感染症の予防を徹底する。購入物品の見直しと経費削減。介護技能実習生4期生の受け入れと育成。各部門の意思疎通と風通しの良い職場を目指しサービスの向上をはかる。職員の資質向上のため研修受講機会を増やす。	①	定員変更は県と上田市の許可が取れ実現した。結果として収益改善が図れたが在宅の方の短期入所枠が減り影響も出ている。加算は取得可能なものを取ることができた。コロナ感染症は3月に楽リビングで利用者11名職員3名感染し収束まで2週間を要した。実習4期生3名の受け入れができた。日本人で受験資格を満たした職員2名が介護福祉士試験に合格した。サービスの質は向上しているが道半ばである。
②	(デイ) 出入りの激しい事業なので感染症予防を徹底する。利用者の減少が続くため新規の利用者を募り1日25名を目指す。機能維持訓練等ご利用者のニーズに沿ったサービスを提供していく。	②	今年度の利用実績は68%(20人/日)。 ただ2月、3月と新規ご利用者契約が増え次年度には目標25名以上の受け入れが見込まれ、希望が持てる状況にある。作業療法士1名の採用により機能維持訓練などサービスの幅が広がった。
③	(いきいき介護センター) 川西包括支援センターと各事業所・医療機関との連携を密にしケアプラン件数の増加と良質なケアプランの策定に努める。	③	今年度の年間平均プラン作成件数は月95件。相談センターとの連携を密にした結果新規プラン件数は増えたが、入院・永眠等利用中止件数も少なからずあった。後半は件数が増加しているのでやはり来期につながると期待できる。

2　ご利用者状況　　（ 令和7年3月31日現在 ）

① 入所定員　74 名　　入所現員　69 名　　年間利用率　93.4%

② 男性　12 名　　女性　57 名

③ 平均年齢　男性　85 歳　　女性　90.3 歳　　全体　89.4 歳

④ 年度内退所者　25 名　　年度内入所者　26 名

⑤

要介護度状況（高齢者施設）	要介護	男	女	計（人）	割　合
	5	6	25	31	45%
	4	5	25	30	44%
	3	1	7	8	11%
	2	0	0	0	0%
	1	0	0	0	0%
	合計	12	57	69	100%

重 ↕ 軽

*平均要介護度

男性	4.4
女性	4.3
全体	4.3

⑥ 短期入所の年間利用率　83.3 %　　定員　6 名

3　施設整備工事・整備設備等（金額が大きい上位3件）

① 居室・休憩室のエアコン更新　74 万円

② 新規車椅子の購入　4台　38 万円

③ 職員用トイレ　便器交換　修理　40 万円

4　修繕費合計　370 万円　　固定資産取得費合計　181 万円

5　主な活動・実績等

①	(特養)6年8月から12月にかけて実習1期生4名が相次いで結婚退職、その他男性職員2名が自己都合で退職したため介護人員不足により現場負担が増加し心身の疲弊で休業する職員も数名出た。特に1月～3月は介護人員体制逼迫により新規入所者受け入れを中止し、短期入所も3月から受け入れを中止している。また、6年12月後半と7年3月後半にコロナ感染が広がり収束まで各2週間程度を要した。12月に実習4期生3名を受け入れ研修を続けているが、現場にも余裕なくまだ独り立ちには早いことを承知で実務につきながら業務と日本語を覚えてもらう状況。財務収支は改善傾向だが定員変更による増収に加え人件費が期せずして減ったこともあり、手放しでは喜べない。より健全なサービス提供体制構築を目指したい。
②	(デイ) ご利用者の獲得アップを目指し営業努力を続けたが、今年度の利用実績は伸び悩んだ。しかし登録者は3月末現在で80名(昨年度末より6名増)となって来期は増加が見込まれる。期の途中で作業療法士(花城風也PTの妻)の採用が叶い、サービスメニューの幅も広がった。一方で6年12月初旬から利用者・職員数名がコロナ感染し一時的に営業停止を行った。幸いそれ以上の感染拡大は防げた。サービスの提供メニューもマンネリ化を防ぎ、身体機能維持訓練やリハビリなどご利用者の希望に沿った形の提供を工夫することができた。
③	(いきいき) 今年度の月平均プラン作成件数は95件。10月から要支援の方のケアプランも受けられるようなにったのでこちらの件数は徐々に増えているが、ご逝去・入院・施設入所などで担当が外れる件数に新規が追いつかなかった状況であった。ただコロナ禍で制限されていた病院等への訪問や研修会の機会が増えてきて、紹介もあることから3月以降は新規のプラン受任も増えてきている。

6　その他　報告事項

介護職員の不足が全国的に問題となり、どこの事業所も苦労しているが、室賀の里では実習生の受け入れもあって今まではそれほど問題にならなかった。しかし上記のように半年で6名が退職となるとさすがに通常通りの勤務シフトの維持ができなくなり年末年始から現場には超過勤務や休日出勤など大変苦労をかけた。実習生個々の退職時期の問題や日本人の中途入職者の受け入れなど、より緻密な準備と対応が必要と痛感した。また「生産性向上」を目指し省力化と負担軽減策を思い切って採っていくことが急務と考えている。

令和6年度　事業報告

上田しいのみ会

施設名	川西地域包括支援センター 相談センターかわにし	施設長	村上　恒夫

【川西地域包括支援センター】　職員８名（正3、嘱1、ﾊﾟｰﾄ4）

1　重点事業計画と達成度

事業計画	高齢者の介護予防、介護、福祉、保健、医療などの相談窓口としてあらゆる相談に対応する。実態把握や各種人の集まる所に参加し、支援が必要な方の発見、ニーズの把握に努める。	達成度	新事務所へ移りまもなく5年を迎えるにあたり、センターの認知度は更に高まったと感じている。来所相談は旧事務所にいた頃の約5～6倍となり、電話相談や訪問相談の件数も増加している。引き続き、地域の高齢者のための『よろず相談所』としての機能を果たすよう努めていく。

2　主な活動・実績等

①	〇介護予防・日常生活支援総合事業 ・介護予防ケアマネジメントプラン作成：1,263件　・介護予防支援プラン：1,485件　・地域リハビリテーション：29会場 ・公式LINEアカウントを活用し、センターでのイベントの情報を発信　・川西有線と連携し毎朝のラジオ体操が定着した。 ・地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、センターを会場とした『音の輪クラブ』を開催。 ※地域リハは新たに1会場が立ち上がった。 ※健康推進課および高齢者介護課と連携し、『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施』事業に取り組んだ。
②	〇地域福祉推進活動 ・認知症サポーター養成講座：7回、オレンジカフェ『ひなたぼっこ』：12回(参加者のべ152名）、ワンコイン出前講座：50回 ・自治会ごとに行なう会食会や敬老会、人権懇談会など派遣依頼のあった会合には積極的に参加した。
③	〇総合相談支援業務 ・相談　実人数：2,152人（来所相談：411件）　・実態把握：233件　・防火訪問(川西地区）　・孤独死：3件 〇ネットワーク構築 ・地域ケア会議：10回　・包括だよりの自治会回覧：2回　・民児協参加：2か所　・まちづくり組織：2か所 〇権利擁護業務 ・高齢者虐待コアメンバー会議0回　・特殊詐欺等防止パンフレットを関係機関や居宅介護支援事業所などに配布 ・上小圏域成年後見センター開催の小委員会への参加：1回　・特殊詐欺被害相談：0件 〇包括的継続的ケアマネジメント業務 ・相談、退院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽへの参加　・ケアマネ指導助言：12回　・居宅介護支援事業所への予防プラン一部委託：33件(月平均) 〇その他 ・認知症見守りネットワーク事業：14名登録 ・実習生の受け入れ：長野大学4名(8日間・24日間)、上田看護専門学校2名(2日間)

【相談センターかわにし】　職員1名（嘱1）

1　重点事業計画と達成度

事業計画	介護、障がい等の総合的な福祉相談の場として、情報の提供や施設紹介などを行う。	達成度	当法人の高齢者、障がい者施設事業の広報紙等を陳列して情報提供に努めた。 川西地域包括支援センターと連携し、地域の高齢者からの相談に対応した。

2　活動状況

・川西地域包括支援センターが行なうオレンジカフェ『ひなたぼっこ』、『音の輪クラブ』への協力、独自事業として『かわにし寺子屋』を共催した。
・『ひなたぼっこ(152名)』、『音の輪クラブ(294名)』、『かわにし寺子屋(100名)』と、多くの地域住民がセンターに出入りすることとなり、社会福祉法人上田しいのみ会のPRに繋がったと感じている。